

◆事業方針（計画等における位置づけ）

あきる野市では、「あきる野市教育基本計画（第二次計画）」の基本方針の一つとして「学校、家庭、地域の連携・協力の強化」を掲げ、「学校支援体制の強化」を重点施策として学校支援地域本部（学校支援ボランティア推進協議会）事業を推進している。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

現在、あきる野市では、市内6小学校において学校支援地域本部を設置し、委託方式で実施している。

◆運営委員会

実施校の校長、地域コーディネーター、青少年健全育成団体と市職員などで組織する「あきる野市地域教育協議会」を設置し、各校の取組状況や成果・課題について情報共有を行い、事業の評価・人材確保などについて検討を行っている。

◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

あきる野市地域教育協議会において、各校の地域コーディネーターが自校の取組について報告を実施している。

また一部の実施校では、独自に本事業のパンフレットを作成し、地域に配布している。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

東京都主催の研修や講習への参加の呼びかけや資料の提供等を行い、地域コーディネーターのスキルアップを図るとともに、実施校の課題や疑問に答えている。

あきる野市地域教育協議会において、各校の地域コーディネーターが自校の取組について報告し、各校が直面している運営上の課題等に関する情報交換や意見交換を行っている。

◆成果

地域の見守りやパトロールを行うことで、児童の交通事故被害や不審者の出没もない。各種の学校行事にボランティアの協力が得られたため、教育活動が潤った。自分にあったペースで学習指導をしてもらえるので、楽しく学習に取り組めた等の感想が実施校から上がっており、本事業により一定の成果が得られている。

また従来は教職員が行っていた活動を地域のボランティアに行ってもらえるようになったため、教職員の負担軽減にもなっている。

◆課題・展望

実施校に対しては、地域コーディネーターやボランティアの研修や講習への積極的な参加を呼びかけるとともに、保護者や市民への周知を行っていく。さらに未実施校に対しては、情報提供や設置の支援を行っていく。これらにより、学校支援地域本部事業の充実を図る。

また新たな地域コーディネーターの育成が、実施各校の共通課題となっている。